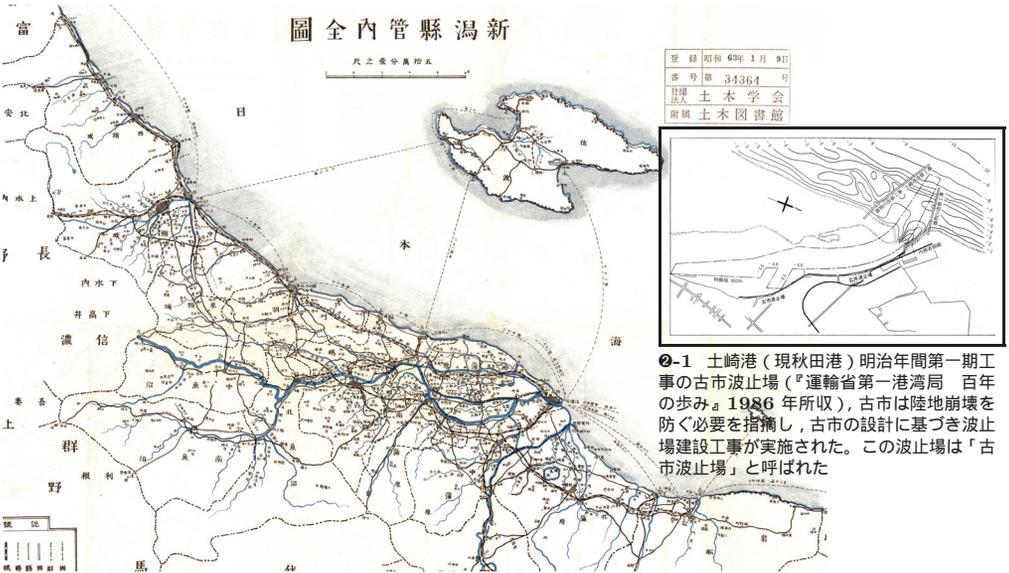


②内務省技術者時代（1880-1886）

西暦	和暦	歳	古市の足跡	国内および土木
1880	明治 13	26	12.11 内務省土木局雇	11.28 開拓使、幌内鉄道手宮・札幌間開通
1881	明治 14	27	06.20 観世流能楽師・梅若實の門に入る 06.28 内務省御用掛に任じ、土木局事務取扱を命ぜられる 10.21 東京大学理化学部講師	05.26 東京職工学校が設立 11.11 日本鉄道会社設立 11 工学会「工学叢誌」創刊
1882	明治 15	28	02 阪井港の修築につき出張 08.16 内務卿に随行し、札幌の豊平川水害防禦計画作成に着手 11.24 東京大学講師の兼務を免ぜられる	02.08 開拓使廃止 11.01 銀座に初めてアーク灯点灯
1883	明治 16	29	02.19 豊平川水害防禦計画を提出 06 豊平川水害防禦工事に着手	11.28 東京麹町に鹿鳴館が完成
1884	明治 17	30	01.24 結婚。東京本郷弥生町に新居 03.06 信濃川・阿賀川・庄川等の土木局直轄工事監督につく 12.21 新潟県在住となり、2つの出張所で工事を監督する	11 政府は野蒜築港の中止を決定 12.17 東京市区改正審査会を設置 12 神田下水着工
1885	明治 18	31		07.02 淀川大洪水 12.22 工部省廃止



②-1 土崎港（現秋田港）明治年間第一期工事の古市波止場（『運輸省第一港湾局 百年の歩み』1986年所収）、古市は陸地崩壊を防ぐ必要を指摘し、古市の設計に基づき波止場建設工事が実施された。この波止場は「古市波止場」と呼ばれた

②-2 新潟県内の信濃川流路（『新潟県治水方針』1916年所収）

信濃川堤防改築

1884年夏から古市は、新潟県を流れる信濃川の低水路整備および水害を防ぐため、川幅の整理と築堤工事に携わる。設計した後、同年12月から新潟県在住となって工事を監督した。

②-3 1896年大洪水（横田切れ）信濃川左岸 西蒲原郡横田村（分水町）近辺の田畑荒蕪の状況（出水後21日）（古市威旧蔵写真）

